

2020年度 傾斜的研究費（全学分）
社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援

【研究代表者所属】：大学教育センター

【研究代表者氏名】：河西 奈保子

【研究代表者氏名フリガナ】：カサイ ナホコ

【研究代表者職】：教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

国際センター・岡村 郁子, 教授
人文社会学部・木田 直人, 准教授
大学教育センター・近藤 伸彦, 准教授
大学教育センター・松田 岳士, 教授

【研究課題名】：

高大連携活動の評価尺度の開発と同活動の効果検証に関する研究

【研究実績の概要】

- ・東京都立大学が行う高大連携活動が高校生に与える影響を評価する尺度の開発を試みた。高大連携室が提供するプログラムに参加した高校生のアンケート回答をもとに因子分析を行ったところ、高校生に与える影響を4つの因子、「学習方略の積極的な使用」、「心理的安定性」、「好奇心・探究心」、「教師との関係」で表現できることがわかった。
- ・共分散構造分析により、高大連携室が提供する大学見学プログラムが高校生活での前向きな姿勢を促し、それが、勉強意欲の向上や進路への関心に影響を与えていることが示される結果が得られた。

【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

- ・本結果は、新しい、高大連携の在り方を提示するものである。
- ・高大接続改革により、多くの大学で、大学での学びの一部を高校生に提供する出張講義等の取り組みや、近年始まった探究学習の支援を行っているが、その効果は将来に進みたい分野や、興味のある学問分野を明確に持つ一部の高校生に限られ、進路を悩む高校生や身の回りに興味を引くものがないという高校生への働きかけは困難である。
- ・先行研究でも、高大連携イベントが増えているにも関わらず、高校生の内面的な成長が高まっていないことが明らかにされており、高大連携活動に求められるものとして、なぜ大学に進むのか、なぜ大学

で学ぶのかを考えさせるコンテンツの提供を挙げている。

- ・こういった背景の中，高大連携室で行う大学見学プログラムでは，複数のメニューにより，大学で学ぶ意義や主体的に過ごす高校生活の重要性について高校生にわかりやすく伝えている．本研究で，このプログラムが高校生の高校での前向きな学習姿勢を促し，学習意欲や進路への関心に効果を与えていることが示された．

- ・このことから，大学は，専門分野の講義を提供するのとは別に，大学へ進学することの意義や主体的な高校生活の必要性を伝えるプログラムを提供することで，高校生が，受験勉強ではなく真の学びに対する興味や，進路選択への見通しを持ち，自己効力感を向上することが期待される．

- ・さらに，本研究で，高校生には高校教員との関係が重要であることが示された．このことから，大学見学時だけでなく，日常的に接する高校教員が高校生へ働きかけることがより効果を上げるだろう．

- ・以上のことから，高校生の状況に合わせて高大連携の目的や在り方を見直すことは，高校生の内面の成長に寄与するものと期待される．

【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

- ・大野 真理子，河西 奈保子，溝口 侑，高大連携活動が高校生に与える影響について——「都立高校生のための先端研究フォーラム」の事例をもとに——，大学入試研究ジャーナル第 31 号，1-7，(2021 年 1 月)．

- ・河西奈保子，磯 尚吾，近藤伸彦，松田岳士，高大連携活動の高校生へ与える影響に関する尺度開発の試み——高校生の主体性向上を目指して——，第 16 回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (2021 年 5 月)

- ・河西奈保子，生徒・学生の主体性向上に高大連携は何ができるか～コロナ禍での経験から引き継がれるもの～，高大連携室公開シンポジウム (2021 年 3 月)

【外部資金への応募状況】

- ・科学研究費への申請を検討中．

- ・今後，外部の研究者との共同研究へ研究を拡大する予定で外部助成申請も検討する．

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・なし